

失われたいのちへ誓う

東日本大震災が教えたこと

企画 内容

東日本大震災は、豊かさや平和の中で、当たり前と思っていた生活のすべてが、実はかけがえのない、ありがたいものだったことを私たちに痛感させました。人と人の絆、一人ひとりのいのちを大切に生きる私たちがはしていたのか。水・電力・食糧…それをありがたいと感謝していただくか…。この作品は、被災した人々、震災によって多くを失った人々の声を紹介しながら、私たちのいまを振り返り、震災後のこれからをどう生きるかを共に考える「いのちの教育」教材です。

内容

＝当たり前の日々が失われたとき…＝

平成23年(2011年)3月11日、14時46分18.1秒。巨大地震発生。その約30分後、巨大津波が東日本沿岸部を襲った…。死者・不明者23000名以上。重軽傷者5000名以上。震災で直接被害を受けた家屋38万世帯以上。そして原発事故…。

被災した宮城県石巻市、福島県いわき市の被災映像、被災現場に残されたアルバムや写真を見せながら、家族・親族・友人・知人を目の前で亡くした方、家や地域を奪われた方の思い、無念さを被災地の人々が語ります。



＝「いまがありがたい…」感謝とありがたさへの目覚め＝

いま生きているということ…。震災で家を流され、多くの大切な人を奪われて、不自由な生活を強いられる中で、それでも、生き残った被災地の人々に広がる、いのちあることのありがたさ。瓦礫の残る不便な生活の中でも、いま生きていることへの感謝を被災地の人々が語ります。



＝失われたいのちに誓う＝

世帯数 300 程度の漁業と海水浴の町…。そこでは 3 分の1に当たる人命が行方不明者を含め、失われました。隣町では、被災を免れた家は数軒…。町は壊滅しました。塩屋岬の灯台を望む海岸線では、被災直後、親や子ども、友人や仲間を呼ぶ声が途切れることはなかったといいます…。その慰霊祭で語られた思い、願い、そして復興への誓い…。避難所にいた小学生の子どもは、言葉をさがしながら、「一時一時を大事にしていきたい…」と語ります。



監督・脚本・・・秀嶋 賢人

企画・制作・・・フォア・ザ・ワン・プロジェクト (<http://www.hideshima.co.jp>)

制作協力・・・(株)びえろプラス

2011年作品

p.

※この作品の収益の一部は、フォア・ザ・ワン・プロジェクトが推進する被災地支援協働プロジェクトの活動に充てられます。